

竜田川

高城 弘一（竹苞）

Kouichi (Chikuhou) Takashiro

まずは、拙作の題材について見ていきたい。

この歌は、『古今和歌集』巻五・秋下二九四の在原業平の詠であるが、一般的には、『百人一首』に十七番歌として所収し、人口に膾炙した歌であろう。なぜこの歌を選出したのかというと、後述する料紙があつて、それにふさわしいものとした。

次に、用具用材等について記述していきたい。

料紙は、新鳥の子紙に自作で料紙加工を施したものである。墨流し↓箔加工↓吹き付けほかし染めの工程である。墨流しを川に、紅葉を錦に、それぞれ見立てたものである。

筆は、滋賀県高島市の攀桂堂・雲平筆「リス毛面相」である。墨は、市販の墨運堂造のかな墨「みかさ」である。

落款印「竹」は、本学中国文学科卒業・鳥山駿太郎氏刻によるもの。拙作は表装をせず、書き下ろしたものである。

今般、制作するに当たって、料紙の墨流しや紅葉の吹き付けほか

し染めと調和し、古筆の持つ上品さを保たせることに主眼を置いた。

墨量の多い潤筆の箇所はために、墨量の少ない渴筆の箇所は自然と細めにした。大きく上句と下句の二つの集団を作り、ところどころ余白を際立たせた。

最後に、当然のことながら、画竜点睛が如き落款印の位置にも熟慮した。

【本紙寸法】 タテ一八・三×ヨコ二四・五センチ

【釈文】（右傍らは字母／は改行）

八 支可 多 奈井二

ちはやぶる／神代もきかず／たつた／川／からくれなるに／水く、

八
る／とは



18.3×24.5